

令和5年10月号

一宮町の歴史特集 — 加納久朗没後60年 —
ワレワレハ千葉県ノタメ

千葉県八日本ノタメ 日本ハ世界ノタメ



【第7回 加納久朗の交遊関係】

前回まで久朗の生涯を時系列でみてきましたが、今回からは特筆すべき事項を見ていきましょう。

銀行員として海外に長く滞在していた久朗。その交遊関係は広く、様々な分野の人々と交流をしていました。

町が所蔵する「加納家史料」には久朗宛の多くの書簡が残されています。その中で代表的な人物を列記してみましよう。

- ・吉田茂(1878～1967)
- ・内閣総理大臣、外務大臣など
- ・木戸幸一(1889～1977)
- ・内大臣、文部大臣など
- ・重光葵(1887～1957)
- ・外務大臣、終戦時の日本全権など
- ・佐藤尚武(1882～1971)
- ・外務大臣、駐ソ大使、参議院議長など
- ・杉村陽太郎(1884～1939)
- ・駐仏大使、IOC委員など

・山本五十六(1884～1943)

海軍軍人、連合艦隊司令長官など

・池田成彬(1867～1950)

実業家、大蔵大臣など

・小林一三(1873～1957)

阪急東宝グループ創業者

このように、日本の近現代史を語る上で重要な人物たちからの書簡が残されています。華麗なる交遊関係の中で特に吉田茂との関係について、次回に紹介しましょう。



▲横浜正金銀行ロンドン支店を訪れた秩父宮殿下(右)と久朗(左)(昭和12年)

【問合せ】教育課 (学芸員 江澤一樹) ☎(42) 1416

令和5年11月号

一宮町の歴史特集 — 加納久朗没後60年 —
ワレワレハ千葉県ノタメ

千葉県八日本ノタメ 日本ハ世界ノタメ



【第8回 加納久朗と吉田茂】

久朗と吉田茂の出会い、昭和初期のイギリス・ロンドンとみられています。久朗は昭和9年(1934)から昭和18年(1943)まで、横浜正金銀行のロンドン支店支配人をつとめ、一方、吉田は昭和11年(1936)から3年間駐英大使としてロンドンに駐在していました。

町教育委員会が所蔵する「加納家史料」には昭和11年(1936)から昭和36年(1961)にかけて、久朗宛の吉田茂書簡が29通残されています。

特に昭和13年から16年にかけてのものが14通と半数近くを占めます。ちょうど日本が英米と開戦する前夜の書簡で、長文のものが多いためです。これらの書簡からは、日英開戦を何とか回避しようとする、2人の外交工作が見取れます。昭和15年の久朗宛吉田書簡には「日英外交の調整は世界平和のために策すべき」とあり、日英関係の改善に注力する、2人の信念が見取れます。

それ以外の書簡では、戦前は外交関係のもの、戦後は近況報告やお礼状など個人的なやり取りのものが目立ちます。これらの書簡から2人の親密さは明らかですが、実は吉田茂の回顧録の中には久朗のことは一切登場しません。唯一、久朗の逝去後に吉田が語ったとされる談話には次のような一文が記されています。

「加納君は、いわゆる大所高所に立つて考えるというか、先きざぎぎのことを考えて、ものの云える人でしたね。世界中をよく見て来ているし、先進国のことを終始気をつけていて、考えが新しかったし、実行力もありましたよ」



▲吉田茂 (写真出典:国立国会図書館「近代日本人の肖像」)

【問合せ】教育課 (学芸員 江澤一樹) ☎(42) 1416